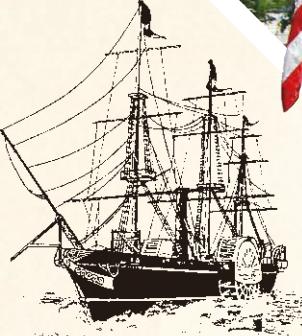


第87回 黒船祭

THE 87th BLACK SHIP FESTIVAL



IN IZU SHIMODA

黒船祭背景と沿革

徳川幕府による鎖国政策は、嘉永 7 年(1854)神奈川において締結された日米和親条約により、その門戸を下田を開港地として近代世界に開かれました。和親条約交渉中にすでに米艦は下田に来航し、港内の測量を実施しており、これ以後、通商条約で横浜開港となるまでの間、下田は開港地として日本外交の中心舞台となりました。

下田「鼻黒」に上陸したペリー一行は、「了仙寺」において、日米和親条約附録 13 か条の締結交渉をおこない、林大学頭をはじめとする日本側全権団との間に調印を取り交わしました。また、安政 3 年(1856)サン・ジャシントン号により下田に来航したハリスは、米国初代駐日総領事として、柿崎「玉泉寺」に星条旗を掲げ、安政 5 年(1858)には日米通商条約締結に成功しました。

その後、総領事館が麻布「善福寺」に移り、開港場としての下田の役割は終えることとなりましたが、近代日本の夜明けとなり、「下田が西洋世界への窓口としてその伝統を生かしつづけ、また、日米両国の関係育成に重要な役割を果たしつづけている。」(元駐日米国大使マイケル H. アマコスト氏)という歴史的背景から、下田開港につくした内外の先賢の偉業を顕彰し、その偉大なる功績を永遠に記念するとともに、併せて世界平和と国際親善に寄与することを目的として、黒船祭が開催されることとなりました。

開港 80 周年を記念した第1回黒船祭は昭和 9 年、4 月 20 日から 5 月 3 日までの 2 週間にかけて行われました。来賓であったグルー駐日米国大使夫妻、野村吉三郎海軍大将等は軍艦「島風」で下田港に入港し、開港先賢慰靈祭を中心に、仮装提灯行列、開港記念展覧会、連日の花火打上げ、黒船に艤装した遊覧船による港内・神子元石廊崎方面への航行、黒船音頭等の発表等、数多くの催しが盛大に行われました。

その後「黒船祭」は、国際的な観光行事として、下田の観光の目玉と呼べるまでに定着していくますが、太平洋戦争の勃発により、昭和 16 年から昭和 21 年までの 6 年間は開催できなくなります。しかしながら、終戦後、昭和 22 年に再開を果たすと、国際親善を体現する日米交流の場として、更には下田のまちが活気づく観光の一大イベントとして、年ごとに盛大に発展していきます。

黒船祭は、今後も下田開港のシンボルとして、また日米親善の場として歩みを続けていきます。

